

2012年10月21日(日) 沖縄タイムス

若者ウチナンチュ・ブラジル大会報告会

県系人の活躍 多言語で



報告会を主催した世界ウチナンチュ連合会のメンバーら。代表の玉元三奈美さん（前列左から5人目）が、知念英信観光コンベンションビューロー政策参与（同4人目）から、みらいファンドの助成金目録を受け取った＝20日、宜野湾市の沖縄国際大学

7月25日から29日までブラジルで開かれた「第1回世界若者ウチナンチュ大会ブラジル・2012」の報告会が20日、宜野湾市の沖縄国際大学であった。同大会の学生、県や支援をした企業の関係者など約100人が参加。大会参加者が成果を発表した。

世界若者ウチナンチュリーグや日本語、英語、スペイン語で発表。現地での会に参加した若者がウチナンチュ大会や沖縄伝統芸

県費留学生への支援提唱

能大会、県系人のビジネス現場への訪問の様子などを映像を使って報告した。

同大会の若者国際会議で発表したサンパウロ州宣言を受けた具体策も報告。

「(県系)ネットワークの持続的活用」「ウチナンチュの普及活動」「新文化の創造」についての六つの提案を実現するため、県費留学生へのサポート、フェイスブックでのビジネス利用を目的としたページの立ち上げなどを示した。

報告会では、同大会支援のため、基金を設置した公益財団法人みらいファンド(小阪巨代表理事)から、市民や法人からの寄付をもとにした助成金12万7932円の目録が玉元三奈美同連合会代表(25)に手渡された。玉元代表は、来年のアメリカ大会に向け「資金面やプログラムを充実させ、より良いものに改善したい」と決意を語った。